

ヴィアティン三重がつなぐ 地域と夢と感動

三重県初のJリーグクラブを目指して活動しているヴィアティン三重。いなべ市を含む三重県北勢地域の2市5町をホームタウンとして、地域に根ざしたクラブ運営を行っています。

今回は、ヴィアティン三重の紹介を通して、サッカーなどスポーツと地域のつながりについて特集します。



チーム名

ヴィアティン三重

ホームタウン

桑名市 東員町 **いなべ市**
木曽岬町 朝日町 川越町 菰野町

ホームスタジアム

朝日ガスエナジー東員スタジアム
(東員町スポーツ公園陸上競技場)

photo: 11月29日(日) JFLシーズン最終節 vs 高知戦。コロナ禍でも多くのサポーターが応援に駆け付けたが、結果は惜しくも0-1で敗戦し、Jリーグへの昇格を逃した。



2012年にヴィアティンFCとして発足し、2015年に現在のヴィアティン三重へとチーム名を変更。所属選手は三重県出身者が多く、Jリーグ経験者も多数入団することでチーム力もあがり、2019年には天皇杯で湘南ベルマーレ(当時J1)を相手に4-0で勝利するなど全国的に注目されるように。

2020年9月、県内のクラブとしては初めてJ3クラブライセンス*の交付を受け、現在JFLで戦っています。

*J3に上がるために必要なライセンス。交付を受けるためには、スタジアムの整備やクラブの運営状況など厳しい審査条件がある。

プロサッカーリーグ
(Jリーグ)

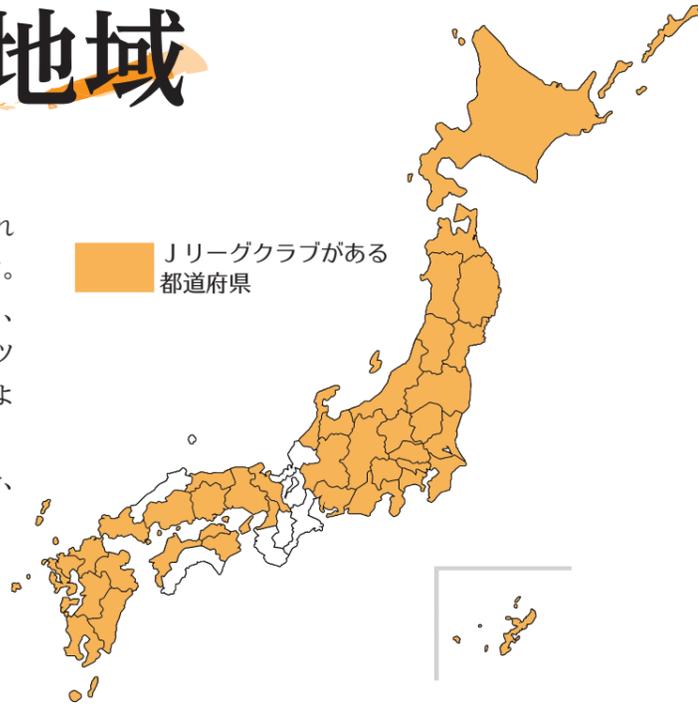
アマチュアサッカーリーグ



サッカーと地域

Jリーグは、スポーツを通して豊かな人生を送れるように「Jリーグ百年構想」を掲げています。これをもとに、Jリーグに加入するクラブに対して、天然芝のグラウンドの整備や、さまざまなスポーツクラブの運営などを地域づくりに取り組んでいくように義務付けています。

40の都道府県にJリーグクラブが存在する今、その輪は広がり続けています。



Jリーグ百年構想

- ・あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること。
- ・サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること。
- ・「観る」「する」「参加する」。スポーツを通して世代を超えた触れ合いの輪を広げること。



子どもたちを笑顔に 地域と共に夢と感動を。

～皆さまの「居場所」となるために～

ヴィアティン三重は、いなべ市をホームタウンにもつ総合型地域スポーツクラブです。サッカーだけでなく、バレーボールやバスケットボールなどいろいろなスポーツを通じて、子どもたちの健やかな成長と、地域の皆さまが毎日を笑顔で楽しめるコミュニティづくりを進めています。

スポーツは「観る、する、参加する」と関わり方はさまざまです。世代を超えて、お父さんやお母さんも、おじいちゃんやおばあちゃんも、目的に応じて楽しみ、夢づくりや生きがいづくりが出来ますように、今後も地域の皆さまと連携した活動をしていきたいと考えています。

いなべ市の皆さま、温かいご支援・ご声援をよろしくお願い致します。



ヴィアティン三重
代表取締役社長
後藤 大介さん

ヴィアティン三重の取り組み

スポーツの普及活動を通じて子どもたちに「夢を持つ」・「健全な発育をする」ことの大切さを伝えるため、学校訪問やイベント開催など、地域とのつながりを大切にしています。



(写真) 2019年3月石榑小学校でのサッカー教室

サッカー以外のスポーツチームも運営

ヴィアティン三重は、スポーツをきっかけとして世代を超えたつながりや新しいコミュニティを作るため、総合型地域スポーツクラブとして活動しています。トップチームだけでなく、下部組織やスクールを運営することによって、子どもたちが夢を持ち、笑顔で過ごせる場所を守っていきたくと考えています。

ヴィアティン三重が運営するサッカー以外のスポーツ

- バレーボール
- ハンドボール
- バスケットボール
- ビーチサッカー・野球
- サッカー女子・新体操
- 陸上・チアリーディング



図書館で借りられる サッカーの本



「サッカーをあきらめない」
岡野雅行著、布施龍太絵
KADOKAWA
日本代表をワールドカップに導いたヒーロー岡野雅行。サッカー部のない高校から日本代表へ。あきらめない気持ちが夢を実現させる。

「アルノとサッカーボール」
イヴォンヌ・ヤハテンベルフ作、
野坂悦子訳 講談社
パパからもらった新しいボール。「大事にするのよ」とママに言われたけれど…。男の子と女の子のためのサッカーの絵本。

いなべとサッカーをつなぐ

員弁町出身でJリーグのチームでキャプテンを務めたこともある和波智広さん。現在はヴィアティン三重の広報としてサッカーと地域のつながりを作っています。

Jリーガーを引退したあと、いなべ市でサッカースクールを立ち上げた和波さん。日々指導する中で、もっと子どもたちに夢を持ってもらいたいと感じるようになりました。そこで決断したのが、ヴィアティンに復帰加入し、再び選手としてプレーしている姿を子どもたちに見せることです。「身近なチームで身近な人がプロとしてプレーを見せることで、いなべから2人目のJリーガーが現れたらうれしい」。子どもたちに雄姿を見せられるよう、2019年シーズン終了の引退まで、ピッチを走り続けました。



選手からスタッフへと立場が変わり、感じていることは「地元であるいなべ市にチームのことが浸透していない」ということ。もっと自分たちのことを知ってもらえるように、さまざまな現場へ何度も足を運んでいます。「ヴィアティンが有名になれば地域のスポーツが盛んになると思う」。すべては地域とサッカーをつなぐため。



いなべサッカー協会理事長で、和波さんの恩師である小林さんとは、サッカーで地域を盛り上げるため、今も交流を続けている。

和波智広（員弁町出身）

生年月日：1980年4月27日
経歴：小学4年生のときに地元のチームでサッカーを始める。暁高等学校卒業後、湘南ベルマーレ・コンサドーレ札幌・ヴィッセル神戸でプレー。2008年に一度引退し、2013年にヴィアティン三重へ復帰加入。2019年の引退後は、ヴィアティン三重にスタッフとして入社。現役時代の愛称は「章駄天」

地域からヴィアティンへ



カイロプラクティックサロン Seed（員弁町）

員弁町にあるカイロプラクティックサロン Seed は、法人会員としてヴィアティンを応援しています。きっかけはサロン利用者にサポーターが何人もいて魅力を教えてもらったこと。リーグがあがったり、スタジアムができたりすることで利用者との会話が増えていることを実感しているそうです。

代表取締役の近藤さんは「これからも応援し続けたいチームであってほしい」と成績だけでなく、地域に密着したチームであることを願っていました。

キッズサポーター



伊藤恵大くん（大安町）

4歳のときに「サッカーがやりたい」とお願いして、ヴィアティンのサッカースクールに通い始めた恵大くん。スクールのコーチが選手として試合で活躍する姿を見て、カッコいいと憧れ、毎日サッカーの練習に取り組んでいます。今では海外でプレーする選手になりたいという夢を持っています。

恵大くんのサッカー人生において、ヴィアティンとの出会いは大きなターニングポイントになりました。



上：好きな色がオレンジになり、ランドセルもオレンジ色に。下：コーチとして教えてもらった和波さんと。



服部恭侑くん 友哉くん（大安町）

地域のサッカーチームに入ったところから、小学生対象の年間パスポートで応援に駆けつけている恭侑くんと友哉くんの兄弟。

ヴィアティンが発足して、近くで全国レベルの試合が見られるようになり、会場の盛り上がりを感じて、サッカーにはまっていったそうです。サッカーは家族共通の話題にもなっています。



兄弟で必勝祈願！

来季のスケジュール

JFL（日本フットボールリーグ）

開幕戦
3.14 SUN
vs いわき FC
会場：福島

ホーム初戦
3.21 SUN
vs マルヤス岡崎
会場：三重



公式ホームページ



公式 youtube

応援
よろしく！



※以降の試合日程は2月中に発表予定です。